

## ～ 小学校で慣れ親しんだ活動そのものを取り入れる② ～

小学校外国語活動を生かした指導（その4）では、中学校でも活用できる外国語活動でよく行われている活動について、三つの事例のうちの一つを紹介しました。今回は、残り二つを紹介します。

その2

### ポインティングゲーム

**ねらい**

単語を繰り返し聞かせ慣れさせる。

**活動の種類**

1 聞く活動



**方法・内容**

- ・カルタ的活動（指導者が言う英語を表す文字や絵を児童が指さします。）
- ・全体で一斉に行ったり、ペアで競争したりする。

**中学校での活用例**

フォニックス指導で活用

例) 教員の言う英語の頭文字を選択する活動

T : Monkey.

S : アルファベットの M or m を指さす。



K 中学校では、フォニックス指導で、このポインティングゲームを取り入れています。ただ楽しいだけで終わらせるのではなく、「学び」をしかけ、文字を意識させている点は参考になります。フォニックス指導というと、音と文字との関係について学ばせることですが、教え込むのではなく、活動を通して音と文字の関係に気付かせようとしています。小学校外国語活動で慣れ親しんだこのポインティングゲームを取り入れて行うことで、入学したばかりの生徒にとっても、安心して意欲的に取り組むことができると思います。

K 中学校では、生徒の「気付き」を確認し、全員で練習する等、知識の定着なども意識しています。とても大切なことです。

### その3

# スリーヒントクイズ

## ねらい

同じ表現等に慣れ親しむ。(繰り返し聞いたり言ったりする)

## 活動の種類

1 聞く活動 (4 自分の意志で選んで発話する活動)

## 方法・内容

- ・教師の3つのヒント(語、語句、文章等)から答えを推測するクイズ。
- ・実態に応じ、児童がヒントを考えることもある。
- ・使用表現に、ある程度慣れてから行うと効果がある。



## 中学校での活用例

広く中学校で行われている Who (What) am I? がスリーヒントクイズの応用形と考えられます。

入門期では、スリーヒントクイズと名付けて、ヒントを三つにしぼるなど工夫することで、慣れ親しんだ活動として、安心して取り組むことができると思います。

児童に作問させるなど、発話する活動として行っている学校もあります。



S 中学校では、入門期には、「聞く活動」を大切にしています。小学校外国語活動での楽しさを継続して味わわせたいと考え、クイズ形式にして、帯活動として授業の始まりに行っています。特に、スリーヒントクイズは、小学校でも慣れ親しんでいる活動なので、数多く実施しています。ヒントの内容も、一語から始め、徐々に文章で行うなど配慮しています。

慣れてくると、教師が三つのヒントを指示した後に、まだ答えがわからない生徒たちが、自発的に Is it black? Is it from America? Do you like it? 等と学習した表現を使って質問をするようになりました。

また、W 中学校では、スリーヒントクイズや Who (What) am I? を聞く活動として十分行った後、書く活動として、クイズ作りにも挑戦させています。書く目的がはっきりしているので、非常に意欲的に取り組んでいます。

中学校で活用できる小学校で慣れ親しんでいる活動を、合計三つ紹介しました。

それらの活動を中学校でそのまま取り入れることで、生徒の心理的なバリアが取り除かれ、新しい表現にも積極的に取り組むことができると思います。

各校でも、生徒の実態に応じて工夫して取り組んでほしいと思います。